

平成20年度 校区外部評価の結果(最終まとめ)について

— 校区外部評価委員による評価結果と学校による内部評価結果 —

評価期間 8月1日～7月31日	学校番号 3	学校名 品川区立浅間台小学校
-----------------	--------	----------------

<記入の仕方>

①『第2回外部評価に関する協議会』へは、内部評価(自己評価/網掛け)の結果に「中間のまとめ」以降のものを追加し、報告してください。

②「今後に向けての考え」の欄は、校区外部評価結果と、学校の内部評価と比較・検討し、学校の受け止め方を明確にした上で、学校の考えをお書きください。
※今回は最終まとめですので、1年間を総括し、具体的に表記してください。

③各校で、特に重点を置いた設問などについて、印を付けるなどの工夫をしてください。

④その他、参考となる事項がある場合は、末尾にご記入ください。

評価項目 その1【基礎学力の定着に関して】

校区外部評価の設問	評定 ※外部	評定について	評定 ※内部	今後に向けての考え
〔教師の姿〕 ①児童・生徒に学習の準備をさせている。 (学習への心構え)	A		B (B)	学力向上委員会の活動の一つである「学習の心構え」をさらに定着させるために、学期ごとのふり返りを徹底していく。
〔教師の姿〕 ②児童・生徒に指示や説明をしっかり聞かせている。 (学習への意欲・態度)	A		B (B)	全校の目標である「しっかりと聞く・話す」を全校朝会や音楽朝会、児童集会だけでなく、日常の授業においても意識させて、学習規律の育成を図る。
〔教師の姿〕 ③児童・生徒に正しい姿勢で学習させている。 (学習規律)	A		B (B)	「学習の心構え」を徹底していく中で、学力向上委員会を中心に、児童の実態をさらに詳細に把握するとともに、実態に応じた具体的な手だてを検討し、実施していく。
〔教師の姿〕 ④児童・生徒を学習に参加させる指示や質問をしている。 (学習活動)	A		A (B)	浅間台小版教師道場や校内研究会で教員が研修した効果的な指示や質問の仕方を、全校朝会での講話や日常の指導の中で生かしていく。
〔教師の姿〕 ⑤板書の書き方が丁寧である。 (授業の展開)	B		B (B)	授業改善の視点として、板書計画を重点に置き、授業記録をVTRに収めるなどして、全員で確認しながら改善を図っていく。
〔教師の姿〕 ⑥児童・生徒の意見を正しく聞き入れ、質問にはわかりやすく答えている。 (児童・生徒への対応)	A		B (A)	市民科学習や話し合いの場を通して、話し方や意見の聞き方を学んでいく。さらに話し方の基本を伝えながら、話の中心がはっきりした会話の仕方を学んでいく。
〔教師の姿〕 ⑦机間を回り、個々の児童・生徒の学習の様子を確認している。 (個別対応)	A		B (B)	合同学年会での情報交換や個人カルテの作成・検証を通して、一人一人の学習の実態をよりきめ細かく見取ることができる体制をつくる。
〔教師の姿〕 ⑧授業に工夫が見られる。 (授業の工夫)	A		B (B)	一人一人の課題に応じた習熟度別授業や交換授業、異学年合同授業、地域・保護者参加型授業など、児童の実態に即した授業形態を取り入れていく。
〔教師の姿〕 ⑨ノート等に正しく丁寧に文字や数字を書かせている。 (基本的な指導)	A		B (B)	学年団で、効果的なノートの使用法を検討し合い、学力向上委員会でまとめ、発達段階に適したノートの使用法を学校全体で共通理解していく。

〔教師の姿〕 ⑩児童・生徒の顔をしっかりと見ながら授業を進めている。 (状況確認)	A		B (A)	児童理解をテーマにした研修会や校内研究会、個人カルテの作成において、一人一人の実態を把握して学習を進めていくことの重要性を再度確認していく。
〔教師の姿〕 ⑪授業のねらいが明確である。 (指導)	B		B (B)	その時間の授業のねらいを児童が的確に理解できるように、常に黒板の左上に掲示するなどして、分かる授業を目指して、授業改善を図る。
〔教師の姿〕 ⑫一人一人の児童・生徒の学習状況を確認している。 (評価)	A		B (B)	個人カルテの作成や小テスト、学期末のテストや年度末の学力調査により個別の学習状況を的確に把握する。また、個人面談を活用して個別の学習状況を複数の教員で把握する。
〔教師の姿〕 ⑬家庭学習を習慣化させている。 (家庭との連携)	A		B (B)	保護者への啓発活動を学年だよりや学校だより、保護者会等で計画的、日常的に行っていく。また、家庭学習の効果が分かりやすく伝えるため、グラフ等で表すなどして、意識の向上を図る。
〔授業の様子〕 ①話の聞き方や発表の仕方など、学習ルールが守られている。 (学習のきまり)	A		B (B)	日々の授業や学校生活はもちろんのこと、昨年度の校内研究「話し合い活動」を通して学んだことを生かして、基本的なルールを徹底して指導し、日常的な実践となるようにしていく。
〔授業の様子〕 ②児童・生徒同士で考えたり話し合ったりする活動がある。 (集団での学習活動)	A		B (A)	昨年度の校内研究「話し合い活動」で実践したことを通じて、児童が意見を出し合って、自分たちで進めていく活動を意図的、計画的に設定して、児童の満足感や充実感を高めていく。
〔授業の様子〕 ③児童・生徒が課題に一所懸命に取り組んでいる。 (学習に対する児童・生徒の意欲)	A		B (B)	児童の実践意欲を高めていけるように課題解決学習や体験学習、交流学习を学年の実態に応じて意図的、計画的に取り入れていく。
〔授業の様子〕 ④全体的に活気がある。 (学ぶ意欲にあふれた学級づくり)	A		B (B)	児童の意欲や興味・関心を喚起するような学習内容を提示し、児童自身がめあてをもって課題解決に取り組むことができる学習形態をさらに工夫していく。
〔学校の様子〕 ①学力の定着・向上に対して、小学校と中学校の先生が定期的に集まり協議している。 (小中一貫教育の推進)	B		B (B)	年に4回、小中合同研修会を設定し、学力向上に向けた具体的な方策を検討し、実践していく。また、実践した内容については、保護者や地域に学年だよりや学校だよりを通じて周知していく。

評価項目 その2【社会性・人間性の育成に関して】

〔児童・生徒の姿〕 ①児童・生徒は、誰に対しても礼儀正しくあいさつ(※会釈も含む)している。 (望ましいあいさつ・返事、基本的習慣)	A		B (B)	地域の人材と接する活動を積極的に計画して、数多く挨拶できる機会を増やしていく。また、相手の気持ちを考える場を設定し、礼儀や挨拶の大切さへの意識を高めていく。
〔児童・生徒の姿〕 ②児童・生徒は、学校のきまりを守って活動している。 (学校のきまり・校則の理解と励行)	A		B (A)	1週間ごと、1ヶ月ごと、学期ごとなど、児童が自分の行動を振り返る場を設定し、課題を明らかにしていく。課題については学校全体の重点目標として取り上げ、日常的に働きかけていく。
〔児童・生徒の姿〕 ③児童・生徒同士は、適切な言葉遣いをしている。 (学校での言語環境)	A		B (B)	言葉遣いについて週目標や月目標、学級・学年目標に取り上げ、全児童が相手のことを思いやる温かい言葉遣いができるように指導していく。また、家庭や地域の方にも協力を依頼する。
〔児童・生徒の姿〕 ④児童・生徒は基本的な生活習慣が身についている。 (家庭生活)	B		B (B)	実態調査を分析して、生活習慣定着のために必要な家庭の役割を明確にして、周知を徹底していく。また、今年度の校内研究のテーマである食育を推進して、生活習慣改善への意識を高めていく。
〔児童・生徒の姿〕 ⑤児童・生徒は忘れ物をしない。 (基本的な生活習慣)	B		B (B)	連絡帳をより効果的に活用して、保護者と毎日、児童の様子や連絡事項が、確実に伝わるような体制を整える。

〔教職員の姿〕 ①服装や身だしなみなどに気を付けている。 (社会人としての基本)	A		A (A)	全教職員が教員や社会人としてふさわしい服装や身だしなみを心がけている。定期的にサービス事故や苦情対応に関する研修の場を設け、意識を高めていく。
〔教職員の姿〕 ②児童・生徒に対して、場に応じた適切な言葉遣いをしている。 (模範であることの自覚)	A		A (A)	教員としてふさわしい言葉遣いを心がけているか、より児童の心に響く言葉遣いになるためにはどうしたらよいか、定期的に教員同士が確認、検討し合える場を設定し、改善点を明確にする。
〔教職員の姿〕 ③保護者・地域の方々に対して、礼儀正しく接している。 (他者に対する接し方)	A		A (A)	保護者・地域に信頼される学校づくりに向けてさらに意識を高めていく。また、地域と交流する教育活動において、教員自ら礼儀正しい態度で接することを心がけていく。
〔教職員の姿〕 ④児童・生徒の模範となる態度を心がけている。 (大人モデルとしての意識と自覚)	A		A (A)	日常の学校生活の中で、常に児童の模範であるという意識を忘れず、教員自らの態度が児童の学習意欲を高めたり、生活態度を向上させる意欲を高めたりできるようにしていく。
〔教職員の姿〕 ⑤児童・生徒の気になる言動や態度に対してその場で指導している。 (生活指導)	A		A (A)	学級・学年団を問わず、教職員誰もが浅間台小学校の児童の担任だという意識をもち、積極的に児童にかかわっていく。
〔教職員の姿〕 ⑥児童・生徒の生活指導上の問題について、小学校と中学校で話し合いをしている。 (小中一貫教育生活指導の姿勢)	B		B (B)	年4回の小中合同研修会において、成果や課題を明らかにして、課題の解決に当たっては、その実態や原因を明確にして、同じ認識、同じ歩調で取り組んでいく。
〔教職員と児童・生徒の関係〕 ①児童・生徒は教職員に対して、年長者に対する言葉かけや態度で接している。 (望ましい人間関係)	A		B (B)	小規模校のため、家庭的な雰囲気があり、つい気軽な気持ちで声かけをしてしまう場面がある。そのため、場に応じた適切な言葉遣いができるように、国語の授業や市民科の学習、交流学習を中心に言葉遣いを学び、実践できる場面を設定していく。
〔教職員と児童・生徒の関係〕 ②児童・生徒は、教職員の注意や指示を素直に聞き入れている。 (毅然とした態度と信頼)	A		B (B)	注意や指示は素直に聞くことができる。しかし、長続きせず、同じことを繰り返す場面も見られる。児童の心に響く指導を実践していくために、校内外の研修等で具体的な方法を学んでいく。
〔教職員と児童・生徒の関係〕 ③教職員は、児童・生徒一人一人へ自然に話しかけている。 (児童・生徒との日々のコミュニケーション)	A		A (A)	学年団での複数指導体制やたてわり班活動の中で、できるだけ多くの児童を指導したり、かかわったりできる機会を継続して設定していく。
〔地域の方と児童・生徒の関係〕 ①生徒は、地域の行事に参加している。 (地域行事への参加意識、活動状況)	A		B (A)	地域の祭礼や清掃等の行事が行われる際には、全校朝会や学級指導で必ず呼びかけている。また、教員が積極的に行事に参加することで、児童の参加は確実に増えているので、今後も継続していく。

評価項目 その3【保護者・地域との連携に関して】

〔教職員の姿〕＜保護者向け＞ ①学級における学習や生活の様子を伝えている。 (情報提供)	A		A (B)	学級・学年だよりや連絡帳などで、学校生活の様子を定期的に伝えている。また、早急に連絡の必要がある場合は電話等で対応しているが、さらに的確に児童の様子を伝える方法を学年団等で検討していく。
〔教職員の姿〕＜保護者向け＞ ②保護者に誠実な対応をしている。 (説明責任)	A		A (A)	どのような相談に対しても、まず保護者の思いを受け止めることを第一に考えることを全教職員が心がけて対応している。引き続き、保護者が学校に対して話しやすい環境作りをしていく。
〔教職員の姿〕＜地域向け＞ ①地域で会ったときに、あいさつをしている。 (礼儀)	A		A (A)	地域の方の名前と顔が一致するように、また、浅間台小学校の教員だということを認識してもらえるように、地域との交流の場には積極的に参加するようにしていく。

〔教職員の姿〕＜地域向け＞ ②町会の行事に、教職員が参加や協力をしている。 (地域と積極的に連携する姿勢)	B		B (B)	地域の学校や児童に対する思いや願いを教員に伝え、町会等の行事に参加することが、学校と地域との信頼関係を強めることにつながることを周知していく。
〔教育活動への参加〕＜保護者向け＞ ①学校は保護者が教育活動に参加しやすいように工夫している。 (保護者の視点からの学校公開)	A		B (B)	学期ごとに実施する大きな行事は保護者や地域が来校しやすい日時で設定しているため、参観率は上昇している。保護者の意見を聞きながら、さらに参観率が上がるように日時の設定を工夫していく。
〔教育活動への参加〕＜地域向け＞ ②学校は、地域の環境や人材を活用する学習計画を立てている。 (地域環境・人材の活用)	A		B (A)	地域の人材が日常的に教育活動に活用できるように、年間計画の中に組み込んで実施している。さらに効果的な実施となるよう教育課題委員会で検討していく。
〔学校からの発信〕＜保護者向け＞ ①最新の学校情報を発信している。 (保護者の視線に立った情報公開)	A		B (B)	学校だより、学年だより、学級だより等で発信するだけでなく、学校紹介パンフレットやプレゼンテーション等も活用して常に最新の情報を発信できるようにしていく。さらにホームページ、CTV、マスコミ等も効果的に活用していく。
〔学校からの発信〕＜保護者向け＞ ②保護者に成績の付け方についてわかりやすく説明している。 (評価に対する説明責任)	A		B (B)	学期末の保護者会では、通知表の見方や活用の仕方、評価規準等について説明していく。また、必要に応じて学校だよりでも知らせていけるようにする。
〔学校からの発信〕＜保護者向け＞ ③防災や不審者の情報を速やかに発信している。 (防災・安全に関しての情報発信)	A		A (A)	些細な出来事でも保護者が不安に感じるような時は、一斉メール配信を活用して、素早く正確に情報発信するとともに、学校の対応も知らせるようにしていく。
〔学校からの発信〕＜地域向け＞ ①学校だより等が地域の掲示板に貼られている。 (地域への情報発信)	A		A (A)	今、学校でどのような教育活動が行われているかなど、常に最新の情報が地域に伝わるように掲示場所を拡大したり、掲示方法を工夫したりしていく。
〔学校からの発信〕＜地域向け＞ ②管理職は、町会に積極的に参加し、交流を図ろうとしている。 (地域連携に対する管理職の姿勢)	A		A (A)	管理職だけでなく、できるだけ多くの教員も参加し、学校と地域、互いの思いや願いを共有し合っ、信頼関係をさらに強めていく。

評価項目 その4【環境・美化に関して】

〔学校の状況〕 ①児童・生徒が落ち着いた生活を過ごしている。 (生活指導)	A		B (A)	生活指導委員会を中心に、学校生活のふり返りや、児童の実態に応じた目標設定を行う。また、合同授業や交換授業、ティーム・ティーチングでの指導など、できるだけ多くの目で児童を見守る体制を構築していく。
〔学校の状況〕 ②校内の学習環境が整えられている。 (清掃・美化)	A		B (A)	浅間台小版ISOを設定し、全校で取り組んでいく。また、市民科や社会科での環境学習とも連動させて、児童及び教員の環境美化、学習環境の整備に対する意識を高めていく。
〔学校の状況〕 ③児童・生徒による校内清掃が行き届いている。 (清掃指導)	A		B (A)	日常の清掃活動だけでなく、週1回実施するたてわり班清掃を活用して、全児童が清掃に関する正しい知識と態度を身に付け、実践できるように働きかける。また、生活指導部が中心になって、清掃指導重点習慣を設定して、指導していく。
〔学校の状況〕 ④来校者に学校の活動や児童・生徒の活動がわかる校内掲示がある。 (学習環境を整える校内掲示)	A		B (A)	学校掲示板の他、学校施設周辺にも教育活動がわかる写真や作品などを計画的に掲示していく。また、校内の掲示については、図工の作品を展示して、浅間台小ギャラリーとして、美術館のような環境を整え、児童の情操を養っていくように工夫していく。
〔学校の状況〕 ⑤破損箇所に対する対策が施されている。 (安全管理体制)	A		A (A)	定期的にも実施する安全点検において、破損箇所を的確に把握し、修理等を即時に行うようにしていく。

評価項目 その5【独自の特色ある教育活動に関して】

<p>〔 教師の児童理解 〕 ①担任や学年団専科は児童との個人面談を行い、一人一人を正しく理解する努力をする。 ②全教師は保護者の相談にいつでもの機会をつくり保護者の思いを受け止める。 ③児童を保護者と担任が同じ目線、同じ方針で教育することができる。</p>	<p>A</p>		<p>B (B)</p>	<p>保護者会、学校だより、PTA 役員会、学校説明会を通して、学校はいつでも気軽に相談できる体制であることを伝える。また、カウンセラーにも気軽に相談できる体制を整え、個別に安心して相談できる環境作りを行う。児童の個人カルテにはできるだけ必要な情報を載せて、担任以外でも児童の状況が把握できるような体制を構築する。</p>
<p>〔 児童と地域の関わり 〕 ◎児童は、日常の学習で様々な地域の人とかかわることで、地域のよさを知り地域の為に貢献できることができる。 ①お茶、習字、俳句、パソコンを地域の人達と共に学習することで礼儀や知恵や人とかかわり方を身に付ける。 ②地域で行う行事に積極的に参加することで地域の文化や歴史を学ぶ。</p>	<p>A</p>		<p>B (A)</p>	<p>市民科学習で学んだことを日常生活で実践できる場面を設定するため、地域の方と触れ合う体験を計画的に行っていく。そして、その体験を通して人とかかわり方やマナー・礼儀などを学び、ふり返る場面を設定し、次の活動に生かしていく。 また、地域にも学校の情報を発信するとともに、教育活動への協力を呼びかけて、登録してもらえるようにする。</p>
<p>〔学級経営を核にした、市民科学習の推進〕 ○教師は、「学級指導」を中心とした市民科を核に、教科や行事と関連させることで、児童と教師の信頼関係を築き、児童が規範意識や集団行動様式を学び一人一人を大切にす学級経営力を付ける。</p>	<p>A</p>		<p>B (B)</p>	<p>「学級経営」や「専科経営」の向上につながるよう、昨年度は市民科の校内研究に学級活動を取り入れて、「聞く・話す・折り合いをつける」ことの重要性を全教員が共通理解できるようにした。そして、研究の成果である浅間台小学校版市民科教育を推進することにより、基礎・基本の学力の定着や学んだことを実践でき、地域社会に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>〔特色ある教育システム〕 ○大学との連携により習熟度別学習や個人化カルテの作成をより効果的に推進する。また、食育のデータの分析や解析を大学の専門性を生かし家庭教育の向上に繋げていく。</p>	<p>B</p>		<p>C (C)</p>	<p>現在は玉川大学、日本体育大学との連携が取れつつある。さらに具体的な連携方法や内容について検討を重ねていく。</p>
<p>〔小中連携〕 ○東海グループ同士の小学校3校は林間・移動教室で計画、実践をする。また、中学校を交えての教職員の意見交換会等を積極的に行う。</p>	<p>B</p>		<p>B (B)</p>	<p>日光移動教室、日光林間学校においては東海グループ内の小学校3校は実施時期を合わせて、合同で計画を進め、実践した。さらに、効果的な連携となるように具体的内容を検討し、実施していく。</p>
<p>〔 学校行事 〕 ○児童の学習で今まで学んだ力を評価してもらい機会として毎年、学習発表会を行う。</p>	<p>A</p>		<p>A (A)</p>	<p>今後も、児童の日頃の学習成果が発表できる機会を計画的に設定していく。</p>
<p>〔 〕 ○</p>			<p>()</p>	
<p>〔 〕 ○</p>			<p>()</p>	
<p>〔 〕 ○</p>			<p>()</p>	

＜その他の参考となる事項＞